

正行寺 弥陀如来名号徳

長野県松本市大手

了智は佐々木四郎高綱 第59代宇多天皇第9皇子敦実親王の後胤。鎌倉時代前期の武将で、近江源氏の佐々木秀義の4男であり、正行寺の開基。

開基は第59代宇多天皇第9皇子敦実親王の後胤、鎌倉時代前期の武将で、近江源氏の佐々木秀義の四男である佐々木四郎高綱。法名は了智。

佐々木四郎高綱は源頼朝の家来。挙兵時から頼朝のそばにあって功を重ね、木曾義仲追討の際義経の陣中に配属され、宇治川で梶尾景季と先陣争いをした話で広く人々に知られた武将である。高野山にて出家(1195・西入)し、その後越後に流罪になっていた親鸞聖人を訪ねて面受し門弟になり法名を了智と賜る。親鸞聖人の門弟になった開基了智は、赦免になり常陸へ行かれる途中善光寺へ参詣する親鸞聖人と共に信濃に入り、筑摩郡栗林郷(現在・島立南栗林)に一字を建て、正行寺と号した。そして弥陀如来名号徳は親鸞聖



正行寺弥陀如来名号徳

人88歳(1260)の時に書かれたもので、写本が正行寺に残っている。大経に説かれる阿弥陀仏の十二光について解釈し、名号の徳義について述べたもの。